



名前は裏面に記入してください

原爆先生じゅこうの特別授業を受講して

表

私は、今まで原爆の事についてあまり知ることはありませんでした。しかし、今回原爆先生の授業を受けて原爆のおそろしさ、大変さを学ぶことができたと思います。

「しゅんごんが人が炭になってしまう熱さ」と聞いたけど私は、そんなにすごい熱さだっただなんて聞いた時はとてもびっくりしました。そして、原子爆弾を投下する都市の条件があることを初めて知りました。そして投下する都市も候補があったことを知りました。その中でも広島に投下することを決めたたくさんの人が死んでしまったこととあらためて分かりました。原爆はとても大変な事だということがよく分かります。14万人も原爆で死んでしまい、その数からも大変さや原子爆弾の強さが感じられます。戦争を経験した人は今、どんどん減ってきていると思います。でも原爆先生のように原爆の事について教えてくれる先生がいることはとても良いことで大切な学習だったと思います。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

私は原爆先生の話を聞いてびっくりしたことがあります。1つ目は原爆についてです。原爆は、表面が7000℃で大陽をこえているのはとてもびっくりしました。中心の温度は、100000℃以上であり得ません。

衝撃波は、空気を変えるということとても怖くてたまりません。

放射線は、あひるとおそろしい病気になったりもします。

7000℃に体かなって炭になり、衝撃波でバラバラになるそうです。2つ目は、原爆を落とす条件などです。

原爆を落とす条件は ①直径5kmを超える ②平野であること ③空襲がなかったと条件付きで原爆を落とすのに都市を選ばないで最低だと思いはした。最も強くおそれたのは米軍でした。島にかまわされていた、げんばくの町が問題になるとおそれていました。だが文化の差をわがまじいようにと感情をこすりつけた結果おさまりました。このように原爆先生の話を聞いて思ったことが2つあります。1つ目はこの時代はとても大変な時代、何百万人死ななくて、くろしがたをいらしたとです。2つ目は、原爆を落とした人は最低だと思いはした。日本にいい原爆を落とせばいいから死なせたのはとても、



じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

はくはこれで原子爆弾が長崎、広島に
 投下されたことは知ってはいらっしゃるが
 およそ何人か、木村さん、原爆の破壊
 力などはあまり知りませんでした。原爆
 先生の話で特に驚いたことは、燃焼
 した原爆の中心の温度が約7000℃だとい
 うこと、表面温度が太陽よりも高い7000℃
 だったことです。マカイツリーの上から太陽が落ち
 ているのを想像すると、とても怖いです。
 さらに、原爆の大きさについても驚かされま
 した。身長3m、重さ4tです。この原爆の規
 模について知ると、改めて原爆のおそろしさ
 を知りされます。最後に、「7000℃の少年
 の尖叫が分かった。「7000℃は原爆
 の表面温度のこと。少年は原爆の先前、リトル
 ボーイだ」ということか。



原爆先生の特別授業を受講して

じゅこう

表

名前は裏面に記入してください

私はこの授業を受講し、戦争は2度とおこしてはならないと思いました。今映像を見て亡くなった人々の親せきや友達、その人に関わった人々の思いを感じられました。取りかえしたいけど取りかえせない命。そのことを思うと、アメリカのおろかさにはかりが込み上がってきます。「命は1つしかないよ」。そう教えてあげたくなります。戦争をしている人々に、正義なんてありません。原爆を落とすのに協力した何十人、何百人の人々に、何万人、万十万人の命を取りもどせるからや、たのでしょうか。そうではないはず。命を軽く見ていたんだと思います。命はお金より、何よりも重いから、軽く見てはいけないと思います。

私達は今、命の大切さを伝えなければいけません。いろんな人に伝えることにより、みんなが平和のことを考えられると思うからです。私は早く英語を話せるようになって、外国の人々にも平和のことを伝えたいです。何十年か先には、戦争がなくなれば良いと思うので、そのために頑張ります。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

今までには「昔に原爆があったんだ、ふーん」ぐらいに思っていたけれど、この授業を受けて、昔に本当におそろいことがあったんだと僕の想っていたことを、何もかもくつかえしてしまいました。特に上空600mに太陽よりも温度が高い球ができたとき、そのおそろいさで、身ぶるいがおこります。この時、死んでこんなに簡単に死んでしまっているのかなと思いましたが、もし、この時、この時代にこんなことが起きてしまったらと想像しました。もし、ぼくが軍隊だとしたら、たとえば、任務だとしても、多分できず、逃げかたしてしまうと思います。そんな時でも冷静に判断し、勇気を持って、行動できたのは、すごいと思いました。もう二度、こんなおそろいことがおこってほしくないと思います。日本にこんなに、おそろいことがあったなんて、信じたくないし、信じられません。だから、またこんなことがないように、この授業をひらいて、僕たちにそれを教えてくれたんだと思います。僕は爆弾がおとされて生き残。たんの立場に立って、その気持ちを考えてみました。それを考えると、やっぱりこの授業は価値あるものだと改めて、実感しました。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

じゅこ

表

ぼくは、原爆先生の特別授業を受講して、広島におとされた時の様子を少しは知ることができたと思います。しかし、実際にその場にいた人じゃないと、知ることのできないことも、たくさんあったと思います。池田義三さんが、原爆ドームの人形を見て言、た一言の「きれいすぎる」には、その、実際にその場にいた人じゃないと知ることのできな、非惨さなのだと、思いました。ぼくが見ると、原爆ドームの人形を、実際だったらものすごく非惨だったと思うんですが、実際に体験した義三さんからしたら、こんなものは、実際よりきれいに作られている。あの時の人々の非惨さとは、比べられない。というように感じ、きれいすぎる、と言ったのでしよう。

特別授業では、具体的に数値を出して説明してくれましたが、もう、7000と言われても「すくぬき」としかわからなかったです。とにかく、非惨だった。体験していないほどにはそれしかわからなかった。「もう戦争をしないけれど」と何かあっても言うくらいでは理解できませんでした。もう思い出したくないであろう時の話を、自分の死んだ後に、もう戦争を起さないうために、勇気を出して、泣きながら語ってくれた池田義三さんに感謝しています。当時の人の思いを「戦争起さないう」という今後に生かしていただろうと思います。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

私は、今まであまり深く戦争のことについて考えたことがありませんでした。でも今回、原爆先生の特別授業を受けてとうじの人々のつらさが改めてよく分かりました。私が原爆先生の話の中で一番心に残っているのは、何といっても広島に原爆が落ちた直後の人々の様子です。ひろからは油がたれ、さあるとくすね落ちる人間ではない人たちが「軍人さん、助けて…」といっても素通りすることしかできなかつた池田義三さんのつらさが痛いほど伝わってきました。

しかし、義三さんたちは被爆時から3日間たつた人々の死体を処分しなければならなく、心が折れそうだったか「国の命令だ」と思い必死でがんばらたと聞き、義三さんはとても勇敢で立派な人だと思いました。

今回の授業を受けて、戦争は絶対にやめてはいけないということが改めて感じました。世界では今でも戦争をしている国がたくさんあります。食べ物がかつたり、病気にかかつたりしている人もいます。そんな中、私は勉強もでき、食べ物に困ることなく暮らせるのは、とても幸せなことな人だと思いました。来年も再来年もその次も、またその次の年も、こうして戦争のことを考えたいです。そして、それを次の世代へと伝えていくことが、今の私にできる、平和への道のりの第一歩だと思っています。



名前は裏面に記入してください

じゅこう
原爆先生の特別授業を受講して

表

アメリカは、日本が敵だからと言って、げんしばくだんを落とすのは、ひどいと思いました。広島県に落ちたげんしばくだんは、7000°もあってびっくりしました。60kgのウランは、1kgしかねんしょうしなからたけど、14万人の人が亡なりました。た^のそれが60kgもねんしょうしたら、と考えると、とてもおそろしいと思います。げんしばくだんが落ちた時、人が熱線して衝けき波して、消えてしまうなんて、げんしばくだんは、とてもこわいと思いました。

9人の兵隊さんたちは、亡なっている人を、おぶったり、けがの手当てをしたり、まだ生きている人を救助したりして、とてもすごいと思いました。げんしばくだんの中へ^{池田}池田義三さんが行くにつれて、人は、人間のすがたじゃなくなるというのが、すごくこわかったです。池田義三さんが、広島のとんじ室に行った時、人形を見て、「きれいすぎる」と言っていたけど、それ以上、よろよろだったら、なんて想像が付きませんでした。だから、今の日本は、とても平和だということが、すごく分かりました。戦争もしないし、ばくだんも落ちてこないし、毎日、ご飯も食べれるし、病院もあるからです。もう、2度と、戦争はしてはいけないと、心から思いました。



原爆先生の特別授業を受講して

表

名前は裏面に記入してください

私は、原爆先生の話を聞いて已久ためて戦争は怖
くはない、こわいということを感じました。私はな
ぜたくさんの方が亡くなっていても怖がりつづけるのか
が気になりました。戦争で亡くなった人、とてもマ
わがっていた人がとてもかわいそうだと思います。
原爆先生の話を聞いて、当時生きていた人と亡くな
っている人を分けるひまもなかったと言っていたから本
当にひどいからなんだと感じました。最後の日中イ
象でも泣いて私たちには分からないほどのつらさがそこ
にあったんじゃないかと思います。今は日本では戦争
が終わっていてみんな笑顔ある生活があつてとても
いい国だと思います。原爆先生が言っていた、
「きれいすぎる」と言ったのは私には人々がきれ
いにできすぎてるという意味じゃないか
と思います。本当に見た人と人々のちがいがあ
りすぎるからショックを受けたんだと思
います。原爆先生の話を聞いて前より
もっと戦争の怖さを知りました。これ
からもたくさんの方に戦争の怖さを知
ってもらいたいと思います。



名前は裏面に記入してください

原爆先生の特別授業を受講して

表

今回、原爆先生の話を聞いて、とても複雑な感情を僕は抱いた。それは、原爆は恐ろしいという弱い感情と、戦争は絶対にや、てはいけないという強い感情を。僕は、今回原爆先生の話を聞いてから、家で何故日本はアメリカの原爆を投下されたのかを調べてみた。するとそれは日本がな人も自分か、てある、たのかか書かれていた。日本は1941年、アメリカとの交渉を失敗しアメリカに攻撃をし1945年に降伏するとアメリカ側に言われたにも関わらず、天皇の中心の政治体制を守れないからと無視し、そのおかげで、原爆を投下されたというのです。「ふさけるな、！日本は自分から攻撃して負けたうえに負けを認めない意地の悪さを以て、14万人もの命を亡くしたのか、情けない。もう一つ思ったことは、実際に戦争を見ていないものには、本当の恐ろしさは分からないのだ」と思った。最後の義三さんのヒテを見て僕はそう思った。また、そのヒテオで義三さんが涙する場面が印象的だった。



じゅうこう
原爆先生の特別授業を受講して

名前は裏面に記入してください

ほくが「原爆先生の授業を受講して最初に思ったこと
 とは「ズバリ」ということです。広島の人々が原爆を落とされて、
 火傷したりケガをしたりして、土地獄のような所で苦しんでいるの
 に、(敵だから仕方のないかもしれない) 落としたアメリカの方は破りが
 かもたしかめるために、実験半分ではくせんの人命を平気ではらうて
 いて、ひどいと思いました。また、手記に書かれた被害者の様子を聞
 いているだけで気持ち悪くなるのに、実際に光景を見て、その人
 遺体も運んで、さらに少し前に3000℃くらいいやがり、放射能も
 高いうちに火爆心で近づくにやがて、とても大変ななと思いまし
 た。でも3日くらい経つと慣れてしまったというので、慣れてというのは
 恐ろしいと思いました。また、原爆に使われたウランは60kgで、火然火焼
 したのは1kgだけなのに、100万(=7000)の火球が出て、440m/sの
 しょう撃波が出たということも、60kgを全て火然火焼していったら、広島と
 その近くはほとんどなくなっていたと思えます。そして今はその1000倍
 くらいの核爆弾が1万6000発くらいあると聞いてびっくりしました。
 それだけの火爆弾が一度に落ちたら、地球全体が広島のようになってし
 まうと思うので、そうならずに広島や長崎が最後の原爆で攻撃され
 た所にはなればよかったと思いました。

状態の